

Hermite 対称領域

阿部 紀行 (北大理)

記号

- $G : \mathbb{R}$ 上の代数群 $\Rightarrow G(\mathbb{R}) : \mathbb{R}$ 値点のなす Lie 群, $G(\mathbb{R})^+ : G(\mathbb{R})$ の単位元を含む連結成分.
- $\text{Is}(X) : \text{Riemann 多様体 } X \text{ の等長変換全体.}$
- $\text{Stab}_G(x) = \{g \in G \mid g(x) = x\}.$
- $1_n = n$ 次単位行列, $1_{p,q} = \begin{pmatrix} 1_p & 0 \\ 0 & -1_q \end{pmatrix}.$
- $\text{GL}_n(\mathbb{R}) = \{g : n \times n \text{ 実行列} \mid \det(g) \neq 0\}$, $\text{GL}_n(\mathbb{C})$ も同様.
- $\text{SL}_n(\mathbb{R}) = \{g \in \text{GL}_n(\mathbb{R}) \mid \det(g) = 1\}$, $\text{SL}_n(\mathbb{C})$ も同様.
- $\text{GO}(p, q) = \{g \in \text{GL}_n(\mathbb{R}) \mid {}^t g 1_{p,q} g \in \mathbb{R}^\times 1_{p,q}\}.$
- $\text{O}(p, q) = \{g \in \text{GL}_n(\mathbb{R}) \mid {}^t g 1_{p,q} g = 1_{p,q}\}.$ $\text{O}(n) = \text{O}(n, 0).$
- $\text{SO}(p, q) = \{g \in \text{O}(p, q) \mid \det(g) = 1\}.$ $\text{SO}(n) = \text{SO}(n, 0) = \text{O}(n)^+.$
- $\text{GU}(p, q) = \{g \in \text{GL}_n(\mathbb{C}) \mid {}^t \bar{g} 1_{p,q} g \in \mathbb{C}^\times 1_{p,q}\}.$
- $\text{U}(p, q) = \{g \in \text{GL}_n(\mathbb{C}) \mid {}^t \bar{g} 1_{p,q} g = 1_{p,q}\}.$
- $\mathbb{S} = \text{Res}_{\mathbb{C}/\mathbb{R}}(\text{GL}_1(\mathbb{C}))$ ($\text{GL}_1(\mathbb{C}) = \mathbb{C}^\times$ を \mathbb{R} 上の代数群と見なしたもの).
- $F(n_1, \dots, n_r) = \{0 = V_0 \subset V_1 \subset \dots \subset V_r = \mathbb{C}^n \mid \dim(V_i/V_{i-1}) = n_i\} : \text{旗多様体.}$

定義 $X : \text{多様体}$, $g : (T^*X)^{\otimes 2}$ の切断. g が **Riemann 計量** $\iff g$ は各点で接空間上の内積を与える. このとき組 (X, g) を **Riemann 多様体** と言う.

X が更に複素多様体 (よって各接空間は \mathbb{C} ベクトル空間) の時, Riemann 計量 g が **Hermite 計量** $\iff g(\sqrt{-1}X, \sqrt{-1}Y) = g(X, Y)$. このとき組 (X, g) を **Hermite 多様体** と言う.

定義 X が **Riemann 対称空間** $\iff X$ は連結 Riemann 多様体であり, 更に次の同値な条件を満たす.

- (1) $X \neq \emptyset$, $\forall x \in X \exists s_x \in \text{Is}(X)$ s.t. $s_x^2 = 1$, x は s_x の孤立固定点.
- (2) ある $x \in X$ に対して (1) のような s_x が存在し, 更に $\text{Is}(X)$ は X に推移的に作用.

更に X が Hermite 空間であり s_x が正則の時 X を **Hermite 対称空間** と呼ぶ.

定理 Hermite 対称空間は「Euclid 型」「コンパクト型」「非コンパクト型」の積に分解される.

	Euclid 型	コンパクト型	非コンパクト型
典型例	\mathbb{C}^n/Λ ($\Lambda \subset \mathbb{C}^n : \text{離散部分群}$)	$\mathbb{P}^1(\mathbb{C})$	上半空間

非コンパクト型が重要. 非コンパクト型 Hermite 対称空間を **Hermite 対称領域** と呼ぶが, ここでは非コンパクト型 Hermite 対称空間で通すこととする.

定義 非コンパクト型 Hermite 対称空間 X が**既約** $\iff \#X \neq 1$, X は非コンパクト型 Hermite 対称空間の積に非自明に分かれない.

定義 連結 Lie 群 (または連結アフィン代数群) G が**単純** $\iff G$ は非可換であり連結な正規部分群が $\{1\}$ と G のみ. (非連結な正規部分群はあり得る. $SL_2(\mathbb{R})$ は単純だが $\{1_2, -1_2\} \subset SL_2(\mathbb{R})$ は正規部分群.)

更に単純 Lie 群 (または連結単純代数群) G が**随伴型** $\iff G$ の中心が自明.

定理 X : 既約非コンパクト型 Hermite 対称空間 $\Rightarrow \text{Is}(X)^+$ は実 Lie 群の構造を持ち, 単純かつ随伴型. また $x \in X$ に対して $\text{Stab}_{\text{Is}(X)}(x)$ はコンパクト.

定理 X : 既約非コンパクト型 Hermite 対称空間 $\Rightarrow \exists G: \mathbb{R}$ 上の単純代数群 s.t. 随伴型かつ $G(\mathbb{R})^+ = \text{Is}(X)^+$.

$x \in X$ を固定する. $\text{Stab}_{G(\mathbb{R})^+}(x)$ はコンパクトで $X \simeq G(\mathbb{R})^+ / \text{Stab}_{G(\mathbb{R})^+}(x)$.

s_x に対する群上の概念が次の Cartan 対合.

定義 $G: \mathbb{R}$ 上の代数群, 対合 $\theta: G \rightarrow G$ ($\theta^2 = 1$ となる自己同型) が **Cartan 対合** $\iff \{g \in G(\mathbb{C}) \mid \theta(\bar{g}) = g\}$ がコンパクト. (\bar{g} は複素共役.)

$G \subset GL_n(\mathbb{C})$ かつ $g \in G \Rightarrow \bar{g} \in G$ の時, $\theta(g) = \bar{g}^{-1}$ は Cartan 対合. ($G = GL_n(\mathbb{C})$ の時 $\{g \in G(\mathbb{C}) \mid \theta(\bar{g}) = g\}$ は $U(n) \times U(n)$ と同型になる.)

G が Cartan 対合を持つ $\iff G$ は**簡約**である. (これを簡約群の定義としてもよい.)

定理 (1) 単純代数群は共役を除きただ一つの Cartan 対合を持つ.

(2) $K = \{g \in G(\mathbb{R}) \mid \theta(g) = g\} \subset G(\mathbb{R})$ は極大コンパクト部分群.

(3) X : 既約非コンパクト型 Hermite 対称空間, $x \in X$, G : 代数群 s.t. $G(\mathbb{R})^+ = \text{Is}(X)^+$, $\theta(g) = s_x g s_x^{-1}$ ($g \in \text{Is}(X)^+ = G(\mathbb{R})^+$). このとき θ は G の Cartan 対合 θ にのび, $G(\mathbb{R})/K \simeq G(\mathbb{R})^+ / (G(\mathbb{R})^+ \cap K) \simeq X$.

X : 既約非コンパクト型 Hermite 対称空間. $x \in X$ を固定し, G と G の Cartan 対合 θ を上のように取り, $K = \{g \in G(\mathbb{R}) \mid \theta(g) = g\}$ とおく. $z \in U(1)$ に対して z 倍は $T_x(X)$ の等長変換.

定理 z 倍は $u(z) \in \text{Is}(X)$ にのび, 準同型 $u: U(1) \rightarrow Z(K)$ を与える. ($Z(K)$ は K の中心.)

よって特に $\dim Z(K) \geq 1$ である. 実は単純代数群 G に対して $\dim Z(K) \geq 1 \iff \dim Z(K) = 1$ であり, この対応により:

定理 既約非コンパクト型 Hermite 対称空間 $\xrightarrow{1:1} \dim Z(K) = 1$ となる随伴型単純代数群.

これを満たす G は分類でき, X は次のどれか: $U(p, q)/(U(p) \times U(q))$, $Sp_{2n}(\mathbb{R})/U(n)$ (Siegel 上半空間), $O(2, n)/(O(2) \times O(n))$, $SO^*(2n)/U(n)$ (定義は略), 例外型 $\times 2$.

Hodge 構造

定義 $V: \mathbb{R}$ 上のベクトル空間. V の **Hodge 構造**とは, 分解 $V \otimes_{\mathbb{R}} \mathbb{C} = \bigoplus_{p,q \in \mathbb{Z}} V^{p,q}$ s.t. $\overline{V^{p,q}} = V^{q,p}$ のこと.

\mathbb{C} 上の平滑固有な代数多様体 X のコホモロジー $H^*(X, \mathbb{R})$ の Hodge 分解がその典型的な例.

例 $\mathbb{R}(n) = (2\pi\sqrt{-1})^n \mathbb{R}$ (ベクトル空間として), $\mathbb{R}(n)^{(-n,-n)} = \mathbb{C}$ (そのほかは 0).

- V_1, V_2 に Hodge 構造が定まっていると, $V_1 \otimes V_2, V_1 \oplus V_2$ にも自然に Hodge 構造が定まる.
- $\mathbb{S} = \text{Res}_{\mathbb{C}/\mathbb{R}}(\text{GL}_1(\mathbb{C}))$ とおく. $V: \text{Hodge 分解の与えられたベクトル空間に対して, } V^{p,q}$ 上 $h(z) = z^{-p}\bar{z}^{-q}$ により $h: \mathbb{S} \rightarrow \text{GL}(V)$ を定める. この対応で: $\{\text{Hodge 構造}\} \xleftrightarrow{1:1} \{\mathbb{S} \text{ の表現}\}$.
- $n \in \mathbb{Z}, \bigoplus_{p+q=n} V^{p,q} = \exists V^n \otimes_{\mathbb{R}} \mathbb{C}$ と書ける. $V = \bigoplus_n V^n$: **ウェイト分解**. $V = V^n$ の時 ウェイト n という.
- $F^r = \bigoplus_{p \geq r} V^{p,q}: V \otimes_{\mathbb{R}} \mathbb{C}$ のフィルトレーション. **Hodge フィルトレーション** と言う. $V^{p,q} = F^p \cap \overline{F^q}$ なので Hodge フィルトレーションから Hodge 分解は復元できる.
- V : ウェイト n とする. **polarization** とは, $\Psi: V \otimes V \rightarrow \mathbb{R}: \mathbb{S}$ 同変, $(x, y) \mapsto (2\pi\sqrt{-1})^n \Phi(x \otimes h(\sqrt{-1})y)$ は内積.

定義 $n \in \mathbb{Z}_{\geq 0}, n_1 + \dots + n_r = n. F(n_1, \dots, n_r) = \{0 = V_0 \subset V_1 \subset \dots \subset V_r = \mathbb{C}^n \mid \dim(V_i/V_{i-1}) = n_i\}$ を **一般旗多様体** と言う. (平滑かつ固有な代数多様体の構造が入る.)

命題 $(V_0 \subset V_1 \subset \dots \subset V_r)$ での接空間は $\{(\varphi_i) \in \bigoplus_i \text{Hom}(V_i, \mathbb{C}^n/V_i) \mid \varphi_i|_{V^{i+1}} = \varphi_{i+1} \pmod{V_{i+1}}\}$ と同一視される.

V が Hodge 構造を持てば, Hodge フィルトレーションは (適当な $\{n_i\}$ に対して) 旗多様体の元を定める.

定義 S : 複素多様体, $V: \mathbb{R}$ 上のベクトル空間. 各 $s \in S$ に対して $h_s: \mathbb{S} \rightarrow \text{GL}(V)$ が定まっており (よって各 $s \in S$ は V 上の Hodge 構造を定める)

- (1) $\dim V^{p,q}$ は s によらない.
- (2) 写像 $S \ni s \mapsto h_s$ の Hodge フィルトレーション \in 一般旗多様体 は正則.
- (3) $s \in S$. 上の射の微分 $T_s S \rightarrow \{(\varphi_i) \in \bigoplus_i \text{Hom}(F^i, \mathbb{C}^n/F^i) \mid \varphi_i|_{F^{i+1}} = \varphi_{i+1} \pmod{F^{i+1}}\}$ の像は $\varphi_i(F^i) \subset F^{i-1}/F^i$ を満たす (横断性).

を満たす時, これを **variation of Hodge structure** と言う.

次の状況を考える (条件付き Hodge 構造):

- G : \mathbb{R} 上の連結代数群.
- $X \subset \text{Hom}_{\text{代数群}}(\mathbb{S}, G)$: 連結成分 ($G(\mathbb{R})^+$ 軌道).
- V : \mathbb{R} 上の G の表現.

$h \in X$ は V の Hodge 分解を与える. 更に次の条件を考える.

- (α) $h \in X$ によるウェイト分解は h に依らない.
- (β) $X \rightarrow (V \text{ の Hodge 構造})$ は Hodge 構造の variation of Hodge structure.
- (γ) $\exists \Psi_n : V^n \otimes V^n \rightarrow \mathbb{R}$ s.t. $\forall h \in X$ に対して polarization.

定理 (α)(β)(γ) を仮定すると, X は非コンパクト型 Hermite 対称空間. (対応する単純代数群は上の G よりも小さい可能性がある.)

■例 1 $\langle (z_1, \dots, z_{p+q}), (z'_1, \dots, z'_{p+q}) \rangle_{p,q} = z_1 \bar{z}'_1 + \dots + z_p \bar{z}'_p - (z_{p+1} \bar{z}'_{p+1} + \dots + z_{p+q} \bar{z}'_{p+q})$ とおく. $\varphi \mapsto \{v + \varphi(v) \mid v \in \mathbb{C}^p\}$ により

$$\{\varphi \in \text{Hom}(\mathbb{C}^p, \mathbb{C}^q) \mid 1 - \varphi^* \varphi \text{ は正定値}\} \simeq \{V \subset \mathbb{C}^{p+q} \mid \dim V = p, V|_{\langle \cdot, \cdot \rangle_{p,q}} \text{ は正定値}\}$$

で, $U(p, q)$ が自然に作用し $U(p, q)/(U(p) \times U(q))$ と同型となる. $V \in$ (右辺) とすると $\mathbb{C}^{p+q} = V \oplus V^\perp$ で, この分解に応じて $(v_1, v_2) \mapsto (v_1, -v_2)$ により V における s_V が誘導される. 対応する Cartan 対合は $g \mapsto t\bar{g}^{-1}$.

■例 2

$$\{[z] \in \mathbb{P}^{n+1}(\mathbb{C}) \mid z \in \mathbb{C}^{n+2}, \langle z, z \rangle_{2,n} = 0, \langle z, \bar{z} \rangle_{2,n} > 0\}$$

には $O(2, n)$ が自然に作用し $O(2, n)/(O(2) \times O(n))$ と同型. また $[x + \sqrt{-1}y] \mapsto \mathbb{R}x + \mathbb{R}y$ により

$$\{V \subset \mathbb{R}^{n+2} \mid \dim V = 2, V|_{\langle \cdot, \cdot \rangle_{2,n}} \text{ は正定値}\}$$

と同型. s_V は先ほどと同様に定義される.